

知恩 第 20 号

2016 年 (平成 28 年) 5 月 21 日、千葉県匝瑳市 (そーさし) 八日市場中台にある水戸藩諸生派戦死者墓前において、水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙行致しました。

明治元年旧 10 月 6 日、水戸藩諸生派諸士は、当地 (松山中台両地区) において、水戸藩天狗党と最期の決戦を行い、敗北、全滅しました。戦後、戦死した諸生派水戸藩士 25 人が村人により、当地に、手厚く葬られました。

戦死 25 人之墓 明治元年 村人により葬られる 現在 匝瑳市史跡に指定されている。

水戸藩士 弔英魂碑 大正 15 年 地元有志により建立される (朝比奈家 朝比奈知泉・撰文)

100 年祭記念碑 昭和 41 年 大中こう様建立 (水戸藩町奉行 富田利助敏行の子孫)

又、匝瑳市今泉地区に於いても戦いが行われ、14 名ほどの諸生派水戸藩士が戦死し、村人により、手厚く葬られました。現在、長泉寺跡に 水戸浪士の墓 の石碑が建立されています。

水戸浪士の墓 平成 20 年 林 千之様建立 (匝瑳市今泉)

148 年経過した今日まで、当地の人々により、手厚く守られ、四季折々、供養されていると伝えられています。心より、感謝申し上げます。

先ず、全国におられる会員の皆様にご報告申し上げます。

千葉県匝瑳市八日市場中台 水戸藩諸生派 戦死者 25 人の墓 (脱走塚墓所)



平成 28 年 5 月 21 日 撮影

◆慰霊供養の経過

明治元年 諸生派水戸藩士 25 人戦死、水戸藩諸生派・市川勢と 水戸藩天狗党 (追討軍) が交戦

明治 2 年	戦死 25 人の墓	建立	匝瑳市中台 地元有志 建立
明治 22 年	21 回忌墓前	法要	匝瑳市中台 見徳寺、福善寺 主催
大正 15 年	弔英魂碑	建立	匝瑳市中台 地元有志 建立 朝比奈知泉 撰文
昭和 35 年	史跡指定	指定	匝瑳市中台 (脱走塚)
昭和 41 年	百年祭挙行	法要	匝瑳市と水戸市・共同主催により法要挙行
昭和 41 年	百年祭記念碑	建立	匝瑳市中台 大中こう様 建立
平成 20 年	140 年忌墓前	法要	水戸殉難者恩光碑保存会 主催
平成 20 年	水戸浪士の墓	建立	匝瑳市今泉 林千之様 (長泉寺・墓所に建立)
平成 28 年	148 年忌墓前	法要	水戸殉難者恩光碑保存会 主催
明治	大森金六郎墓	建立	千葉県銚子市 良福寺 地元有志 建立
平成元年	鈴木欽一郎墓	建立	千葉県匝瑳市 安養寺 大木ヨシ子様 建立

水戸藩国事殉難者慰霊法要 式次第

- 主催 水戸殉難者恩光碑保存会 (別称 水戸藩国事殉難志士を慰霊する会)
日時 平成 28 年 5 月 21 日 (土曜日) 午前 11 時より
場所 千葉県匝瑳市中台 水戸藩国事殉難者埋葬の地・墓前
参列者 水戸市、匝瑳市、地元の方々
総司会 岡見円礼 理事
- 第 1 部 水戸藩国事殉難者慰霊 式典 11:00 より
開式
- 1 読経 米倉山西光寺 (よなぐらさん さいこうじ)
菱木智仁 (ひしき ともひと) 住職
 - 2 追悼の辞 恩光碑保存会 川上有文 会長
 - 3 式辞 水戸市長 高橋 靖 様 (代理 秋葉宗志 副市長)
 - 4 式辞 匝瑳市長 太田安規 様
 - 5 弔魂碑 碑文奉読 恩光碑保存会 前澤瑞穂 副会長
 - 6 正副会長 焼香参拝 川上会長 前澤副会長
 - 7 来賓 焼香参拝 水戸市来賓 匝瑳市来賓の皆様
 - 8 参列者 焼香参拝 参列者の皆様
- 第 2 部 記念写真撮影 式場にて 参列記念写真 12:00 終了
終了後 中台コミュニティーセンターへ移動 (徒歩 3 分位)
- 第 3 部 中台センターにて 交流会 会食 休憩など 12:10~13:30
水戸市・匝瑳市・親睦交流会
- 1 本会代表 挨拶 会長
 - 2 水戸市代表 挨拶 水戸市教育長 本多清峰様
 - 3 匝瑳市代表 挨拶 匝瑳市議会議員 栗田剛一様
 - 4 来賓 挨拶 衆議院議員 田所嘉徳 様 (代理 中川様)
 - 5 親睦交流、会食
- 第 4 部 「水戸浪士の墓」切られ様 埋葬寺院「長泉寺跡」へ 移動 参拝 13:30~15:00
飛田 電雲齋先生 の 剣詩舞 奉納、見学
行事 全終了 (午後 3 時) 15:00

◆来賓の皆様

◆水戸市

高橋靖・市長 (代理・秋葉宗志・副市長)、本多清峰・教育長、三宅・企画教育課長
白石嘉亮・歴史文化財課長、菊地課長補佐、関口係長、藤尾歴史文化財主幹
茨城新聞社相談役・市村眞一様 (代理 岩淵様)、同水戸支社・武藤秀明様
衆議院議員・田所嘉徳様 (代理 中川太一様)

◆匝瑳市

太田安規・市長、栗田剛一・市議会議員、二村好美・教育長
水戸藩士の史跡を顕彰する会・椎名浩会長、長泉寺跡「水戸浪士の墓」設置者・林千之様
匝瑳市文化財審議委員・依知川雅一様、
匝瑳市教育委員会・水口孝様、社会教育主事・宇井信一様、生涯学習課主事・碑田桂祐様
匝瑳市中台区長様、中台・龍性院・役員の皆様 (4 人)

追悼の辞

本日、ここに、水戸藩国事殉難者慰霊法要を行うにあたり、ご来賓の皆様臨席のもと、参列者の皆様と共に、当地戦没者に、謹んで哀悼の意を表します。

水戸藩・天狗諸生闘争の終結から百四十八年、当初、水戸藩主徳川慶篤公に上程した諸生党建言書に記載のとおり、国を思う一念より行動し、各地に転戦し、当地・八日市場が水戸藩諸生派諸士の最期の決戦場となりました。

それ以来 148 年の歳月が過ぎました。今なお往時を偲ぶ時、国のためとはいえ、故郷を離れ家族を思いながらも戦陣に斃れ、又、一族郎党家族に至るまで受難し、その結末は悲惨な状態となり、痛恨の極みであります。

幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い国事に奔走し、北越会津水戸の各地で戦い、遂に当地八日市場・松山戦争において、屍を各地の山野にさらし、有為の人材が散華されましたことは、誠に残念でなりません。

元治元年天狗党事件以降、明治元年天狗党の水戸藩の政権奪取により、水戸藩諸生派諸士は賊軍の立場になりましたが、政権がどう変わろうと、諸士の忠誠心は、一貫して寸毫も変わることなく、少しも恥ずるものはないと信ずるものであります。

次の歌は、諸生派領袖・水戸藩家老市川三左衛門の辞世であります。

「君ゆえに 捨つる命は惜しまねど 忠が不忠になるぞ悲しき」

当地戦没者は勿論、諸生派殉難者全員の心情も同じであろうと推測するのであります。

亦、前・会津藩主・松平容保公の水戸市神応寺・諸生派慰霊碑の碑文の一節に、次のような詩文が残されています。

「何ぞ以て主恩に報ぜん、唯一死あるのみ、死各其の所を異にするも、魂は同じく桑梓に帰す、いわんや藩祖の廟に近く、その志乃ち遂ぐ、地高くして松青く豊碑千祀に伝う」
と伝えられています。

戦没者の御魂は、先祖代々の地・水戸に帰り、各地の殉難者の御魂と共に水戸市祇園寺の恩光無辺の碑にその名を刻み、顕彰され、供養されていることをご報告申し上げます。

更に、当地戦没者については、地元の皆様に心温まる手厚い供養をして頂き、永年にわたり続けられ、今日に至っていることを重ねてご報告申し上げます。と共に、地元の皆様に、心から感謝申し上げます。

幕末維新の大転換期にあたり、事、志と異なると雖も、御魂の安らかならんことをお祈り申し上げ、重ねて、諸士のご冥福をお祈り申し上げます。

平成 28 年 5 月 21 日

水戸殉難者恩光碑保存会
会長 川上有文

川上会長 追悼の辞

高橋靖水戸市長 式辞
秋葉宗志副市長

太田安規匝瑳市長 式辞



水戸市長様の式辞

式辞

水戸藩国事殉難者の慰霊法要がおごそかに執り行われるにあたり 謹んで 追悼と慰霊の誠を捧げます

時代の大きな変革期であった幕末に 自らの信念を貫きながらこの地で最期を迎えた市川勢の御霊が 今なお匝瑳市の皆様の温かい心に見守られ 供養いただいておりますことは 誠に感謝に堪えません また かつての戦跡を匝瑳市文化財として史跡に指定し 保存 活用いただいておりますことに 深く感謝の意を表する次第でございます

さて 松山戦争は 水戸市弘道館の戦いの後に水戸を脱し 再起をかけて下総方面に転進した市川勢と それを追撃する水戸天狗派との間において 多くの死傷者を出した事件であり 水戸藩における戊辰戦争の終結となる歴史上重要な戦いの一つでした 双方にとって たいへん痛ましい出来事でしたが 今の時代を生きる私たちは まさに歴史の転換期に起こったこの出来事の意味を正しく認識し 後世に語り継いでいかなければなりません

このため 本市におきましては幕末維新时期に命を賭して奔走した先人たちの事蹟が残る 多くの関係市町村と交流を深めてまいりたいと考えております 匝瑳市の皆様におかれましては 今後とも末永い親善交流により 本市との友好親善をふかめていただきますよう衷心よりお願い申し上げます

結びに 本日の慰霊法要にあたり 多大なる御尽力を賜りました川上会長をはじめとする水戸殉難者恩光碑保存会の皆様 太田市長 栗田議長 二村教育長をはじめとする匝瑳市の皆様にあらためて厚くお礼を申しあげるとともに 本日御出席の皆様の御健勝を心より祈念して御挨拶いたします

平成28年5月21日

水戸市長 高橋 靖

匝瑳市長様の式辞

式辞

本日 ここに、水戸殉難者恩光碑保存会主催のもと、水戸市、匝瑳市をはじめ皆様ご臨席の中、水戸藩国事殉難者慰霊式典にあたり、御霊に対しまして、謹んで追悼と慰霊の誠を捧げます。

明治元年10月6日、当地、松山において、水戸藩士の戦いにより、亡くなられた方を、当時の松山・中台 両村民が弔い、後に供養塔を建立されました。大正15年には、松山・中台 両地区民等の寄付をもって碑が立てられ、碑文に「香火絶えず、今日に至る」とあるように、地域の方たちによって、今日まで手厚く供養されております。

市といたしましても、歴史的な場所とし、昭和35年3月31日に地元の呼び名により「脱走塚」として、市指定文化財に指定し、所有者とともに保護に努めて居ります。

水戸殉難者恩光碑保存会の皆様には、平成20年10月に140年忌 慰霊法要を中台区の皆さんも参加される中、行なわれ、その後も慰霊を続けられております。

また、地元の皆様におかれましては、私がこの地を通るたび、香華が手向けられ、きれいに保たれた様子を拝見しております。

それぞれ御霊を悼む心をもって活動されており、心より敬意を示すものであります。水戸をはなれること数十里、時の勢い 同胞相戦って亡くなった戦士が、ここ東総の地に骨を埋めて148年、この地を見守る方々が一同に会し、静かに思いを寄せられて、そのご冥福を祈られる機会に、努力された先人も含め、多くの皆様に感謝を捧げ、式辞と致します。

平成28年5月21日

匝瑳市長 太田安規

平成 28 年 5 月 21 日 水戸藩国事殉難者慰霊法要 参列記念



二村教育長 栗田議長 太田市長 菱木住職 川上会長 秋葉副市長 本多教育長 前澤副会長

◆来賓以外の参加者（順不動・敬称略）

弓削徳衛 川上有文 塩澤浩一 岡見円礼 成田行弘 田口寛 市川達也 前澤瑞穂 深谷益美
朝比奈泰将 平戸吉衛 大森信明 影山幸雄
中庭祐一 小畑仁一 小畑美子 平沼賢治 石島光夫 深谷馨 朝比奈みつ子 倉本元子（旧姓
朝比奈氏）小滝和子（同）朝比奈清恵 谷田部良子（同）藤田和久 川上良子 根本昌義
飛田明（電雲斎） 飛田礼子 大金敏子 戸崎敏子 影山幸雄



飛田電雲斎先生による 墓前にて 和歌朗詠 奉納

水戸藩家老 市川三左衛門 辞世のうた

きみゆえに すつるいのちは おしまねど
忠が不忠に なるぞ かなしき

参列者 式場にて



水戸藩士弔英魂碑 朝比奈知泉先生 撰文 (原文・漢文)

松山中台村 徳川氏の時幕府直轄に属す。旗下の士中野定之助之を宰す。明治維新 府藩県制を設け、幕領に府県を置く。両村合わせて宮谷県と為る。柴山文平県令に任じられ、里正の称は、名主を組長に改む。大木三右衛門中台組長に任じ、下山九兵衛松山組長に任ぜらる。佐助翁は、即ち三右衛門の嗣子なり。この時、奥羽未だ平定せず。水戸藩党争余焰なお熾なり。

朝比奈泰尚その嗣子泰彙、寛政布その嗣子政常、及び市川弘美等諸生党を率い、明治元年三月水戸を発し、佐幕諸藩とともに越後、会津を転戦、九月水戸へ帰り、貞芳夫人に頼み、情を訴えんと欲するも果たさず。城門外弘道館に抛り、健闘乱撃遂に敗退す。時に十月一日なり。泰尚残卒を率い、銚子より八日市場に出、六日朝中台に向かう。天狗党多古街道を進み、松山台に至る。両軍接戦、互いに砲火を交え、巳(四つ時、午前十時)より午(九つ時、正午)に至る。一は衆を待み、専ら火器に頼る。一は死を決し、弾渴、大呼短兵を迫闘するも応ぜず。飛丸雨の如く諸生党軍遂に全滅す。遺屍二十五、其の一首級無し。戦い熄んで後、柴山県令両村吏民に命じ、用水渠を傾瀉し遍く搜索するも、遂に獲ることを得ず。大木、下山両組長及び中台村長山崎八郎兵衛、中台仁右衛門、松山村長古関佐兵衛、関忠兵衛等相い謀り、戦没二十五人遺骸を改め、之を葬り、碑を建てて祀る。歳時香火絶えず、以後、今日に至る。

大正十四年四月、予、家兄及び弟金三郎と、始めて戦跡に至る。大木佐助翁 予等兄弟を導き、邸園を指点し、詳らかに当年の状景を説く。其の説明によって宗家父子の為を知る。その首無き者は蓋し寛政布、以ってその死分明なるも、其の首級水戸に至るを伝えず。このごろ。両村有志相い謀り弔碑を建てんとし、予に之を記するを求む。予、不敏にして何を以って之に当たる、顧みるに、予また朝氏の一塊肉なり。生父、伯父、叔父と従兄皆国難に斃る。今、翁に頼りて、一門奮闘、宗家陣没の跡を審らかにしたり。翁古希を跋ゆるも、鬢髮強記いづくんぞよく此に至る。予、不安を以って敢えて辞するを得ざるなり。

戦没者二十五人氏名を左に録す。

戦没者の姓名を次に記す (弔魂碑裏面に彫られた諸生派戦没者の姓名)

朝比奈弥太郎泰尚 朝比奈靱負泰彙 寛助太夫政布 佐藤主税 佐藤貞之助 富田理助敏行
生井松次郎 橋本小三郎 大高孫兵衛 山田惣次郎 友部徳之介 綿引隆三 春山崇七
鈴木欽一郎 佐藤留男 大嶺絵七郎 河合子之吉 上彦四郎 小山金平
小貫理三郎 小貫従者吉三郎 小貫従者安蔵 小貫従者清兵衛 丹下斎蔵 大久保貞蔵

以下3名追彫されている

斎藤新六郎盛至 益子民部左衛門 益子寛介

前澤瑞穂 副会長 碑文を読み上げる



明治大正時代の有名な新聞記者

朝比奈知泉先生 朝比奈泰仁氏 提供



◆墓前慰霊式典終了後、中台コミュニティーセンターにて、水戸市匝瑳市の交流会を行いました。

川上会長 挨拶

本日、皆様には、お忙しいところ、水戸藩国事殉難者慰霊法要にご参列いただきまして、先程、無事、戦死者の墓前にて、慰霊式典を済ませることができました。

水戸の皆様には、朝早くから、又、匝瑳市の皆様には式場の準備など、ご協力を頂きありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

本日は、水戸より、元水戸藩家老・朝比奈家の方、市川家の方、笈家の方、大森家の方も戦死者の御霊を慰めるため、又、地元の皆様には感謝の意を表すため、参加されております。

地元の皆様には、長い間、四季折々、供養を頂きまして、心より、感謝申し上げます。

御承知とは存じますが、

約 50 年程前・昭和 41 年、匝瑳市で 140 年法要が、行なわれた時、水戸市の山本敏雄 市長は追悼の辞で、次のように申されました。

水戸藩家老朝比奈弥太郎どの以下 20 余柱の御霊の御前に水戸市民を代表して謹んで申し上げます。貴方様方は徳川家の大事に際して、親藩としての義を全うしようとされましたことを、私共、日本人の美風として、心打たれるものがあります。中略、終わりには、私共、水戸市民も、当地の温かいご厚情に深い感激と感謝の念を禁じ得ぬものがあります。願わくは、今日、此处に御霊を慰め、ご冥福を祈らんとする私共の至誠を受けられまして、国家の平安と八日市場水戸両市の発展を護り賜わんことを。と述べられています。

又、八日市場教育長の林 吉郎様は、記念誌発刊にあたって、次のように述べられています。

昭和 41 年 10 月 14 日、当市は、史跡脱走塚の 100 年祭を執行した。

この日、市長以下有職者多数が、又はるばる水戸市より、山本市長代理として大高助役、遺族代表朝比奈七雄、吉沢とし子両氏と、県市の関係職員、牧大介氏、関孤円氏や山本秋広氏が臨席され、市民 300 人の参加を得て、厳粛、盛大に法要が営まれたのである。中略 おわりには、水戸を離れること数十里、時の勢い同胞相戦って、敗れた戦士らが、此处東総の地に骨を埋めて 100 年、勤皇と言ひ佐幕と言ひ、その恩讐も霧散した今日、後世多感の水戸の人たちが、しずかに、この脱走塚に思いを寄せられて、その冥福を祈られることを、心ひそかに、期待したいのである。と。

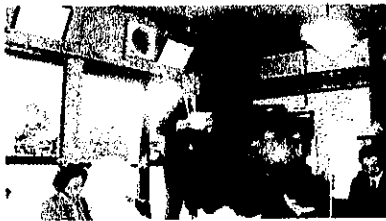
当時を思えば、突然の戦いに、驚き、恐ろしかったと推測します、大変な、ご迷惑をかけたにもかかわらず、手厚い供養を頂き、深く深く、感謝申し上げます。

私共水戸の者として、昔も今も、変わりはありません。これからも匝瑳市の皆様と友好親善関係を深めて参りたいと思います。行政サイドの皆様、どうぞ、宜しく願い申し上げます。

川上会長



本多教育長 ご挨拶



栗田議長 ご挨拶



匝瑳市中台コミュニティーセンターでの交流会（懇談、会食、休憩など）を終了後、匝瑳市今泉地区にある、水戸浪士の墓 に参りました

◆匝瑳市今泉の林千之様が、今泉地区・長泉寺に建てられた（水戸浪士の墓）を焼香参拝し、又、飛田電雲齊先生の剣詩舞が、墓前に演舞・奉納されました。
 今泉地区は、地元の人々により、「切られ様」と呼ばれている。
 水戸藩士 14 名が、水戸藩天狗党により斬殺された。地元の人々が手厚く葬る。
 匝瑳市今泉 長泉寺跡に 平成 20 年建立



今泉地区で戦没した水戸藩士の姓名は次に、記した方々と思われます。

笈平十郎	山田照七郎	宇多川銀平
大嶺小太郎	和田銀平	丹下乙吉
佐藤亥之吉	佐藤市之助	大高俊兵衛
雨口理郷	伊藤徳介	青山惣七
富田常之介	生井秀三郎	

水戸市役所調べ（諸生党戦死者名簿）より



大金敏子様 戸崎敏子様 剣詩舞 演舞奉納



飛田電雲齊先生 剣詩舞 墓前 演舞奉納



◆「斬られ様」について 寄稿文 平成 8 年 匝瑳市 南波鹿子様 記

ご協力・ 匝瑳市八日市場 大川秋嘉様、 匝瑳市今泉地区 林 静 様

明治元年会津城が落ち、奥羽地方も鎮定し、水戸藩から加勢に行った市川三左衛門、朝比奈弥太郎引率の佐幕党員百余名は、藩のために尽くしたという誇らしい気持ちで帰藩した。ところが水戸藩は勤皇党に変わっていて、歓迎されるどころか追い出されてしまった。仕方なく利根川を下り、浜伝えに八日市場方面に上った。現国保病院東北に着くや追って来た勤皇党と戦争となり朝比奈以下 25 名戦死し、中台に葬られ脱走塚と称す。残党は刀傷を負い乍ら野手方面に下り、現野栄町役場東側に待ち伏せ勤皇党と戦争、14 名戦死、尚も、市川三左衛門以下の残党は、光町方面へと逃げのび、それぞれ変装し何処かへ落ちたという。置き去られた屍は、今泉地区の人々に厚く葬られ現野栄町東側に「斬られ様」と称され、碑も建てられた。参詣人も多かったという。勤皇党佐幕党の戦争跡である。今から百二十八年前の明治夜明け前のでき事であった。（平成 8 年記）

◆南波様より聞き書き

匝瑳市郷土史研究家 加瀬俊雄様 記

平成 20 年 7 月 10 日 南波先生 曰く

私は 80 歳、生家は野手 旧村大根畑 父は石橋緒右衛門 旧学校教師 現在茶道の師として生徒と共に楽しむ。

①松山戦争にて諸生派敗れ敗走者は野手村に逃れて来て、民家に一夜泊り、数名はそのまま西を目指し逃れ、衣服を貰い受け平服に着替えて逃れ行く。代替えに刀剣を置き残したと言われる。残った数名が追って来た天狗派に首を打ち取られる。

②「斬られ様」と称され、地元では石碑を建て供養した。

③水戸藩士松山戦争脱走塚百年慰霊祭にも、この場所へ来て供養すると語る。

④此の記について南波先生は、郷土史の研究に熱心でいろいろの人々の聞き学や、書物記録を調べ、現場に足を運んで書したと語る。

建碑の場所は、現状は昭和 40 年代に土地改良耕地整理により田畑の姿が変わり、現状では、当時の面影はなく、場所の特定はできません。現在は此の辺の土地を「きられさま」という小字「こあざ」のように呼んでいる。ここに諸生派 14 名が戦死・葬られている。

歴史は風化すると言う言葉が現実になる。

◆脱走塚を守る (平成 14 年 11 月 「広報ようかいちば」匝瑳市八日市場 社会教育課)

市史こぼれ話 より

歴史的遺跡や遺物は、それらの持つ意義や価値観を知ったり、感じたりする人たちによって保護され、守り継がれています。

今回紹介する市指定史跡「脱走塚」も地域の人たちによって、その由緒にふさわしいかたちで守り伝えられているといえましょう。

脱走塚は、1868 年(明治元年)十一月十九日(当時の歴・旧歴では十月六日)の松山戦争で戦死した水戸藩士を地元松山村、中台村の人たちによって埋葬した墓地のことをいいます。

水戸藩内部抗争の最終戦がこの地を舞台にくり広げられ、多くの被害や恐怖を周辺村むらにも及ぼしました。戦後処理は、中台・松山両村の人びとに課せられました。

新政府は、同年九月に元号を慶応から明治と改めましたが、まだ、藩は残り、近くの多古藩(多古町)にその処理を命じ、遺体の埋葬などは両村の村役人などが行い、その翌年に「戦死二十五人の墓」が建てられ、両村によって供養されたと考えられます。

記録をたどると、1889 年(明治 22 年 5 月 26 日)松山戦争の戦死者の 21 回忌法要が、福岡町(のちに八日市場町)の見徳寺、福善寺住職によって営まれ、群衆の者に紅白のもちを投げ、「広き古戦場(脱走塚)も当日は非常のにぎわいにてありし」と、当時の新聞で報じられました。

次いで、1926 年(大正 15 年)に当時の朝日新聞記者であった水戸藩・諸生党の子孫、朝比奈知泉(あさひなちせん)らによって脱走塚に供養碑が建てられました。この供養には、水戸藩士の子孫も加わったようで、当時のことがくわしくわからないのが残念です。

この碑文の中で、中台村大木三右衛門、山崎八郎兵衛、中台仁右衛門、松山村下山九兵衛、古関佐兵衛、関忠兵衛、らによって、遺体が埋葬されたとあります。

そして、昭和 41 年 10 月に、水戸市(茨城県)と本市(八日市場市・現匝瑳市)とで松山戦争百年祭が催されました。脱走塚を守り伝えるという当地域の人たちの心情は、「年月を経ても供花や線香が絶えない」と大正期の碑文に見られるように大木九郎(故人)さん、現在では大木正男さんご夫妻によって受け継がれています。

平成 20 年 7 月・現在は大木芳子さんが夫の遺志を継いで脱走塚墓所を守り供養されております。

百年祭 記念碑

大中こう様 建立
昭和 41 年

水戸藩士 弔英魂碑
朝比奈知泉 撰文

地元有志 建立
大正 15 年

戦死 25 人の墓

地元有志 建立
明治 2 年



平成 20 年 7 月 撮影

編集後記

ご参加の皆様、朝早くからお疲れ様でした。秋葉副市長様はじめ、水戸市教育委員会歴史文化財課の皆様には、お忙しいところご参加頂き、又、大変お世話になり ありがとうございます。又、匝瑳市の太田市長様をはじめ、皆様にも大変お世話になり ありがとうございます。おかげさまで、無事法要を済ませることができました。心より厚くお礼申し上げます。泉下の殉難者（御霊）も、さぞかし、喜んでいるものと思います。現地の状況について、(原稿)をご協力いただきありがとうございました。皆様のご協力により、全員無事に、この千葉県匝瑳市慰霊旅行（墓前慰霊法要）を終了することができました。お礼申し上げます。

知恩第 20 号

発行日 2016 年（平成 28 年）6 月 15 日

発行所 水戸殉難者恩光碑保存会

発行人 川上有文

編集 事務局編集委員会

壊滅の地、千葉・匝瑳市で法要



史跡・脱走塚の供養塔などを前に焼香する遺族ら＝千葉県匝瑳市中台

幕末・明治維新で水戸藩内の抗争に敗れ、千葉真匝瑳市で壊滅した諸生派の藩士らを追悼する「水戸藩国事殉難者慰霊法要」が21日、同市中台の市史跡・脱走塚で行われた。諸生派の子孫らでつくる水戸殉難者恩光碑保存会（川上有文会長）関係者をはじめ、水戸市側から秋葉宗志副市長や本多清峰教育長、匝瑳市側からは太田安規市長、栗田剛一議長らが出席した。殉難から148年目に当たり、両市幹部も交えて、藩士たちの霊を慰めた。

諸生派藩士を慰霊

子孫や水戸市幹部ら参列

幕末の水戸藩では、尊攘派である天狗党の筑波山拳兵後、佐幕派の諸生派が藩政の実権を握ったが、幕府が倒れると、家老の市川三左衛門を中心とした諸生派約500人は水戸を脱出。北越や会津、水戸を転戦し、1868年に松山戦争（千葉県八日市場・松山の戦い）で壊滅した。戦場跡には戦死した25人の墓が建てられ、市指定史跡となっている。

慰霊法要で、川上会長は「国を思つ一念より行動し、当地が最後の決戦場となった。諸士の忠誠心は一貫して変わることはなかった」と殉難者を追悼。

秋葉副市長は「幕末維新期に、命を賭した先人の事績が残る関係市町村と、交流を深めてまいりたい」、太田匝瑳市長は「戦死者を地域の方が供養を続け、市も史跡に指定し保存に努めてきた。先人へ感謝をささげたい」と式辞を讀み上げた。

同所での慰霊祭は、1966年に100年祭、8年前の2008年に140年祭が行われている。

(武藤秀明)

平成 28 年 6 月 30 日

皆様へ

水戸殉難者恩光碑保存会

(別称) 水戸藩国事殉難志士を慰霊する会

(会報知恩第 20 号) 送り状

前略

時下、すます御健勝のこととお慶び申し上げます。

先日 (28 年 5 月 21 日)、水戸藩諸生党市川勢が天狗党と最期の決戦をして、全滅した千葉県匝瑳市八日市場中台の古戦場跡に建立された水戸藩諸生派諸士の墓前において、水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙行致しました。

本会の会報・知恩第 20 号に、匝瑳市慰霊旅行特集として、まとめましたので、お届け致します。お時間のある時に、お目通し頂ければ有り難く存じます。今後とも、宜しく、お願い申し上げます。

草々

追記

裏面に、茨城新聞記事 (諸生派藩士を慰霊) を添付しましたのでご覧下さい。